

平成30年2月7日

上場会社名 明治ホールディングス株式会社

上場取引所 東

コード番号 2269 URL <http://www.meiji.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松尾 正彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 IR広報部長 (氏名) 古田 純

TEL 03-3273-3917

四半期報告書提出予定日 平成30年2月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	936,824	0.3	72,168	6.2	74,312	10.4	50,720	9.6
29年3月期第3四半期	934,087	2.2	67,940	14.6	67,303	7.8	46,265	9.6

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 63,789百万円 (57.4%) 29年3月期第3四半期 40,527百万円 (25.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	349.30	
29年3月期第3四半期	314.26	

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	950,385	488,455	50.5	3,310.89
29年3月期	883,895	457,190	50.8	3,064.91

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 480,095百万円 29年3月期 448,901百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		45.00		65.00	110.00
30年3月期		57.50			
30年3月期(予想)				57.50	115.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 29年3月期期末配当金の内訳 普通配当45円00銭 創業100周年記念配当20円00銭

## 3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,262,300	1.6	96,500	9.2	97,500	9.7	64,500	6.1	444.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、[添付資料]10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年3月期3Q	152,683,400 株	29年3月期	152,683,400 株
30年3月期3Q	7,678,679 株	29年3月期	6,218,500 株
30年3月期3Q	145,207,376 株	29年3月期3Q	147,219,146 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算短信補足説明資料の入手方法について)

決算短信補足説明資料は決算短信に添付しT D netで開示しております。また、当社ホームページにも同日掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益 (円 銭)
当第3四半期 連結累計期間	936,824	72,168	74,312	50,720	349.30
前第3四半期 連結累計期間	934,087	67,940	67,303	46,265	314.26
対前年同期 増減率(%)	0.3	6.2	10.4	9.6	-

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、雇用情勢の改善が続く中、個人消費に持ち直しの動きもみられるなど緩やかな回復基調で推移しました。先行きについては引き続き成長が期待されるものの、海外経済の動向による国内経済への影響には留意していく必要があります。

こうした中、当社グループは2015 - 2017年度グループ中期経営計画「STEP UP 17」の最終年度を迎え、重点テーマ「成長の加速とさらなる収益性向上」に基づき、「優位事業の強化と新たな成長への挑戦」「環境変化に対応しうる収益力の強化」「グローバル展開の推進」「経営基盤の進化」に向けた取り組みを進めています。

食品セグメントでは、引き続きコア商品の売上成長を図るとともに、生産・物流・販売の効率化とコスト削減に努めることで、着実な成長に向けて取り組んでいます。

医薬品セグメントでは、感染症治療薬・中枢神経系用薬の重点領域に経営資源を集中し、売上高・利益の最大化に努めています。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は9,368億24百万円（前年同期比0.3%増）、営業利益は721億68百万円（同6.2%増）、経常利益は743億12百万円（同10.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は507億20百万円（同9.6%増）となりました。

なお、2017年12月12日付で、当社および当社の事業子会社であるMeiji Seika ファルマ株式会社と、一般財団法人化学及血清療法研究所（以下「化血研」）は、化血研の主要事業を現物出資等により承継する会社の株式を当社グループが一部取得し、連結子会社とする基本合意書を締結しました。今後、最終契約書の締結に向けて具体的協議を進めてまいります。

セグメント別の概況は次のとおりです。

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	連結 損益計算書 計上額
	食品	医薬品	計		
売上高	815,500	122,343	937,843	△1,019	936,824
営業利益	64,947	7,569	72,517	△348	72,168

①食品セグメント

(単位：百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	対前期 増減率(%)
売上高	819,460	815,500	△0.5
営業利益	66,207	64,947	△1.9

売上高は前年同期並みとなりました。栄養事業、海外事業は前年同期を上回り、発酵デイリー事業、菓子事業は前年同期並みとなりましたが、加工食品事業はアイスクリームの減収などにより前年同期を下回りました。

営業利益は前年同期を下回りました。主力商品の伸長によりプロダクトミックスの改善が進んだ菓子事業をはじめ、栄養事業、海外事業は前年同期を上回りましたが、発酵デイリー事業はヨーグルトの減収、加工食品事業は原材料コストアップの影響により前年同期を下回りました。

事業別の売り上げ概況は次のとおりです。

【発酵デイリー事業】 (ヨーグルト、牛乳類、飲料等)

- ・プロバイオティクスは前年同期並みとなりました。「明治プロビオヨーグルトR-1」は、宅配専用商品の大幅な伸長も寄与し前年同期を上回りましたが、「明治プロビオヨーグルトLG21」は前年同期を大幅に下回りました。
- ・「明治ブルガリアヨーグルト」は、前年同期における大幅な売り上げ拡大の反動により、前年同期を下回りました。
- ・牛乳類は前年同期を上回りました。主力の「明治おいしい牛乳」は低脂肪タイプや小容量タイプが好調に推移し、販売エリアを順次拡大している「明治おいしい牛乳(900ml)」も堅調に推移しました。

【加工食品事業】 (チーズ、バター・マーガリン、クリーム、アイスクリーム、冷凍食品等)

- ・チーズは前年同期並みとなりました。主力の「明治北海道十勝」シリーズは、「明治北海道十勝カマンベールチーズ」が前年同期並みとなり、「明治北海道十勝6Pチーズ」は好調に推移しました。
- ・マーガリンは前年同期を上回りました。2017年11月発売の「明治 スプレッタブル」は好調に推移しました。
- ・アイスクリームは、2017年4月からの取引制度変更に加え、夏場の天候不順の影響により前年同期を大幅に下回りました。

【菓子事業】 (チョコレート、グミ、ガム等)

- ・チョコレートは前年同期を上回りました。高カカオチョコレートの持つ健康効果への関心が続く中で、「チョコレート効果」シリーズに代表される健康志向チョコレートは前年同期を大幅に上回りました。また、プレミアムチョコレートの「明治 ザ・チョコレート」も前年同期を大幅に上回りました。
- ・グミは主力ブランドである「果汁グミ」に加えて「ポイフル」などのブランドも好調に推移した結果、前年同期を上回りました。
- ・ガムは市場低迷の影響により前年同期を大幅に下回りました。

【栄養事業】 (スポーツ栄養、粉ミルク、流動食、美容、OTC等)

- ・スポーツ栄養は前年同期を大幅に上回りました。「ザバス」は競技者層に加え、スタイルアップ層への取り組みにより新規ユーザーを獲得したことも寄与し、前年同期を大幅に上回りました。また「ヴァーム」も新商品の販売が好調に推移し、前年同期を上回りました。
- ・粉ミルクは売り場づくりの強化を図り、リニューアル品も発売しましたが、出生数の減少などにより前年同期並みとなりました。
- ・流動食は前年同期を上回りました。病院用では経口向け商品の伸長に加えて、新商品の発売も寄与し、市販用もプロモーション活動と新商品の発売により伸長しました。

【その他事業】 (海外、飼料、畜産品、砂糖および糖化穀粉、運送等)

〔海外〕

- ・輸出事業では、粉ミルクは台湾、ベトナム向けが大幅に伸長するとともに、アミノコラーゲンも好調に推移しました。
- ・中国では、菓子事業は主力のチョコレートが好調に推移し、牛乳・ヨーグルト事業は市販用の牛乳がチルド品の需要増加を背景に大幅に伸長しました。アイスクリーム事業も売り場づくりの強化や新商品発売などにより大幅に伸長したことで、各事業が揃って前年同期を大幅に上回りました。
- ・米国では、好調な現地ブランド品に加えて「ハローパンダ」や「チョコルームズ」などの明治ブランド品のチョコスナックも大幅に伸長した結果、前年同期を大幅に上回りました。

〔その他〕

- ・国内子会社は、物流子会社や飼料子会社が伸長した一方、一部子会社の事業構造改革に伴う減収が発生したため、全体では前年同期並みとなりました。

②医薬品セグメント

(単位：百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	対前期 増減率(%)
売上高	115,671	122,343	5.8
営業利益	2,100	7,569	260.3

売上高は前年同期を上回りました。国内医療用医薬品事業は先発医薬品が堅調に推移し、ジェネリック医薬品が大幅に伸長したことで前年同期を上回りましたが、生物産業事業は前年同期を下回りました。

営業利益は前年同期を大幅に上回りました。前年同期に新薬普及費用が発生した反動に加えて、ライセンス契約に基づくマイルストーン収入が寄与しました。

事業別の売り上げ概況は次のとおりです。

【医療用医薬品事業】

〔国内〕

- ・感染症治療薬では、抗菌薬「メイアクト」は、全身性抗菌薬市場における抗菌薬の適正使用促進やジェネリック製品が浸透したことにより前年同期を大幅に下回りました。
- ・中枢神経系用薬では、主力の抗うつ薬「リフレックス」は、国内うつ病患者を対象とした新規エビデンスに基づく普及活動の強化により前年同期を上回りました。統合失調症治療薬「シクレスト」は、2017年6月からの投薬期間制限の解除もあり前年同期を大幅に上回りました。
- ・ジェネリック医薬品では、抗菌薬「タゾピペ配合静注用 明治」は、市場におけるジェネリック化の加速や追加適応取得もあり、前年同期を大幅に上回りました。
- ・エーザイ株式会社およびF. ホフマン・ラ・ロシュ社との間で締結したライセンス契約に基づき、それぞれマイルストーン収入を計上しました。

〔海外〕

- ・輸出事業では、主力の抗菌薬「メイアクト」の大幅な減売により前年同期を大幅に下回りました。
- ・海外子会社では、インドのメドライク社や中国子会社が前年同期を大幅に上回りました。

【生物産業事業】 (農薬・動物薬)

- ・農薬は、茎葉処理除草剤「ザクサ液剤」が前年同期を大幅に上回りましたが、主力のいもち病防除剤「オリゼメート」が前年同期を下回り、全体では前年同期を下回りました。
- ・動物薬は、コンパニオンアニマル用薬が前年同期を大幅に下回り、家畜用薬および水産用薬が前年同期を下回った結果、全体でも前年同期を下回りました。

(2) 財政状態に関する説明

〔資産〕

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は9,503億85百万円となり、前連結会計年度末に比べて664億90百万円増加しました。これは建設仮勘定が46億8百万円減少した一方、受取手形及び売掛金が273億44百万円、建物及び構築物(純額)が180億50百万円、投資有価証券167億25百万円、機械装置及び運搬具(純額)が62億63百万円増加したことなどによるものです。

〔負債〕

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は4,619億30百万円となり、前連結会計年度末に比べて352億25百万円増加しました。これは1年内償還予定の社債が300億円減少した一方、コーポレート・ペーパーが420億円、支払手形及び買掛金が124億57百万円、短期借入金108億31百万円増加したことなどによるものです。

〔純資産〕

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は4,884億55百万円となり、前連結会計年度末に比べて312億64百万円増加しました。これは自己株式が138億96百万円増加(純資産としては減少)した一方、利益剰余金が328億62百万円、その他有価証券評価差額金が105億44百万円増加したことなどによるものです。

なお、自己資本比率は50.5%(前連結会計年度末は50.8%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年11月8日の「平成30年3月期 第2四半期決算短信」で公表しました連結業績予想数値は変更しておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	24,761	22,636
受取手形及び売掛金	183,807	211,151
商品及び製品	88,524	88,884
仕掛品	4,114	3,571
原材料及び貯蔵品	41,596	47,359
その他	35,274	33,983
貸倒引当金	△370	△223
流動資産合計	377,707	407,363
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	301,158	322,098
減価償却累計額	△172,253	△175,143
建物及び構築物(純額)	128,904	146,954
機械装置及び運搬具	501,254	508,871
減価償却累計額	△372,520	△373,873
機械装置及び運搬具(純額)	128,734	134,997
工具、器具及び備品	52,383	53,716
減価償却累計額	△42,204	△42,879
工具、器具及び備品(純額)	10,178	10,836
土地	72,603	74,190
リース資産	3,972	3,510
減価償却累計額	△3,140	△2,707
リース資産(純額)	832	802
建設仮勘定	24,733	20,125
有形固定資産合計	365,986	387,908
無形固定資産		
のれん	12,840	11,681
その他	13,096	12,188
無形固定資産合計	25,936	23,869
投資その他の資産		
投資有価証券	77,862	94,587
退職給付に係る資産	20,418	21,675
その他	16,092	15,087
貸倒引当金	△107	△108
投資その他の資産合計	114,264	131,243
固定資産合計	506,187	543,021
資産合計	883,895	950,385



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	110,730	123,188
短期借入金	50,574	61,405
1年内償還予定の社債	30,000	-
コマーシャル・ペーパー	-	42,000
未払法人税等	17,457	10,150
賞与引当金	10,512	5,339
返品調整引当金	132	71
売上割戻引当金	2,061	2,068
その他	92,722	98,020
流動負債合計	314,191	342,244
固定負債		
社債	-	10,000
長期借入金	48,923	40,084
退職給付に係る負債	48,371	49,636
役員退職慰労引当金	150	143
その他	15,067	19,819
固定負債合計	112,513	119,685
負債合計	426,704	461,930
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	99,762	99,808
利益剰余金	322,856	355,719
自己株式	△16,607	△30,504
株主資本合計	436,011	455,022
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	25,120	35,665
繰延ヘッジ損益	△5	32
為替換算調整勘定	1,181	950
退職給付に係る調整累計額	△13,406	△11,575
その他の包括利益累計額合計	12,890	25,072
非支配株主持分	8,289	8,360
純資産合計	457,190	488,455
負債純資産合計	883,895	950,385

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	934,087	936,824
売上原価	589,387	596,506
売上総利益	344,699	340,318
販売費及び一般管理費	276,758	268,149
営業利益	67,940	72,168
営業外収益		
受取利息	97	109
受取配当金	1,121	1,136
持分法による投資利益	-	361
為替差益	-	638
その他	1,172	1,244
営業外収益合計	2,391	3,489
営業外費用		
支払利息	603	565
持分法による投資損失	66	-
為替差損	1,683	-
その他	675	780
営業外費用合計	3,028	1,345
経常利益	67,303	74,312
特別利益		
固定資産売却益	5,269	4,024
子会社清算益	-	464
関係会社株式売却益	-	226
その他	2,546	344
特別利益合計	7,815	5,060
特別損失		
固定資産廃棄損	2,082	3,071
減損損失	33	498
関係会社株式売却損	-	444
災害による損失	1,916	-
その他	582	191
特別損失合計	4,614	4,205
税金等調整前四半期純利益	70,504	75,167
法人税等	23,962	23,584
四半期純利益	46,541	51,582
非支配株主に帰属する四半期純利益	276	862
親会社株主に帰属する四半期純利益	46,265	50,720

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益	46,541	51,582
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,673	10,572
繰延ヘッジ損益	33	38
為替換算調整勘定	△5,631	△512
退職給付に係る調整額	2,206	1,832
持分法適用会社に対する持分相当額	△948	275
その他の包括利益合計	△6,013	12,206
四半期包括利益	40,527	63,789
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	40,563	62,903
非支配株主に係る四半期包括利益	△36	885

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成28年4月1日 至平成28年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	819,049	115,038	934,087	-	934,087
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	411	633	1,045	△1,045	-
計	819,460	115,671	935,132	△1,045	934,087
セグメント利益	66,207	2,100	68,308	△367	67,940

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△367百万円には、セグメント間取引消去43百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△410百万円が含まれております。全社費用は当社（持株会社）運営に係る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれんの発生はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	815,042	121,782	936,824	-	936,824
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	458	560	1,019	△1,019	-
計	815,500	122,343	937,843	△1,019	936,824
セグメント利益	64,947	7,569	72,517	△348	72,168

(注)1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△348百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに  
配分していない全社費用△349百万円が含まれております。全社費用は当社(持株会社)運営に係  
る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれんの発生はありません。

(重要な後発事象)

当社は、平成29年4月18日開催の取締役会決議に基づき、平成30年1月30日に下記のとおり国内無担保普通社債を発行致しました。

第8回無担保社債(5年債)

(1)発行総額	100億円
(2)発行価格	各社債の金額100円につき金100円
(3)利率	年0.120%
(4)払込期日	平成30年1月30日
(5)償還期限	平成35年1月30日
(6)償還方法	満期一括償還
(7)資金使途	Meiji Seikaファルマ株式会社に対する融資資金
(8)特約条項	担保提供制限条項